

「将来にわたるあんしん施策」の実績報告(令和4年度)

I 全体の事業費

令和4年度予算額

事業費(総額)31億7千8百万円
(うち、市税・地方交付税等の一般財源21億2千4百万円)

令和4年度決算額

事業費(総額)30億3千7百万円
(うち、市税・地方交付税等の一般財源22億7百万円)

令和5年度予算額

事業費(総額)38億7千7百万円
(うち、市税・地方交付税等の一般財源23億8千9百万円)

現在事業実施中のため、

令和5年度の決算額は

来年度の報告書でお示します。

2 主な取組内容、実績・進捗

施策の柱ごとに、主な取組を抜粋して記載しています。

なお、表中(一番右の列)にある「【課題と今後の方向性】」については、現時点での課題と第4期横浜市障害者プランの中間期(令和5年度末)までの方向性を記載しています。

(I) 親なき後も安心して地域生活が送れる仕組みの構築

【事業名】
後見の支援制度

【事業内容】
障害者本人や家族に寄り添い、漠然とした将来の不安や悩みを一緒に考え、親なき後も安心して暮らすことができる地域での見守り体制を構築します。

【令和4年度実績(年度末時点)】

○実施か所数
18か所(各区1か所)
○登録者数
1,987人
○あんしんキーパー数
1,465人

【課題と今後の方向性】

本制度を必要とする障害者は多く潜在する
と考えられるため、制度を広く普及させ、
必要とする人につないでいきます。また、
地域における見守り体制の強化が必要である
ため、あんしんキーパーの担い手の拡充
に向け取り組んでいきます。

<p>【事業名】 <small>たきのうがたきよてん</small> 多機能型拠点の <small>せいび うんえい</small> 整備・運営</p>	<p>【事業内容】 <small>つね いりようてき ひつよう じゅうしやう</small> 常に医療的ケアを必要とする重症 <small>しんしんしやうがいじ しやとう かぞく ちいき</small> 心身障害児・者等とその家族の地域 <small>せいかつ しえん そうだんしえん</small> 生活を支援するため、相談支援、 <small>たんきにゆうしよ せいかつかいご しんりよう ほうもん</small> 短期入所、生活介護、診療、訪問 <small>かんご きやたくかいご いったいてき</small> 看護や居宅介護などを一体的に <small>ていきよう たきのうがたきよてん せいび うんえい</small> 提供する多機能型拠点を整備・運営 します。</p>	<p>【令和4年度実績(年度末時点)】 <small>しな い かんせいびよてい かんかいしよすみ</small> 市内6館整備予定のうち3館開所済 <small>さと さかえく いえ つづきく</small> (郷/栄区、つづきの家/都筑区、 こまち/瀬谷区) ○4館目整備の進捗状況 <small>じっし せつけいかんりようおよ ちゃっこう</small> 実施設計完了及び着工 <small>せっち うんえいほうじん ふく よこはまきようせいかい</small> 設置・運営法人(福)横浜共生会 <small>とうろくしゃすう</small> ○登録者数 <small>たんきにゆうしよ にん</small> ・短期入所 581人 <small>につちゆういちじしえん にん</small> ・日中一時支援 458人 <small>せいかつかいご さと のぞ にん</small> ・生活介護(郷を除く) 62人 【課題と今後の方向性】 <small>れいわ ねんど かんめ こう れいわ ねんど</small> ○令和5年度4館目しゅん工(令和6年度 <small>かいしよよてい</small> 開所予定) <small>かんめ にしくおいまつちよう せいび</small> ○5館目については西区老松町に整備 <small>よてい ひ つづ かんせいび</small> を予定しています。引き続き6館整備 <small>む さまざま しゅほう けんとう</small> に向け、様々な手法を検討しながら、 <small>そうき せいび む とく</small> 早期の整備に向けて取り組んでいきま す。</p>
--	--	---

(2) 障害者の高齢化・重度化への対応

【事業名】
障害者グループ
ホーム設置
運営費補助事業

【事業内容】
障害者の高齢化・重度化への対応
のため、高齢化・重度化対応グループ
ホームを拡充します。
また、利用するグループホームが
高齢化・重度化等により、生活が
困難となる場合に、グループホーム
のバリアフリー等改修に係る経費を
補助します。

【令和4年度実績(年度末時点)】
○ 高齢化・重度化対応グループホーム
設置数及び定員数
設置数:3箇所
定員数:26人
【内訳】
高齢化:2箇所、定員16人
重度化:1箇所、定員10人
○バリアフリー等改修経費補助件数
3件(平成24年度から累積16件)

【課題と今後の方向性】
高齢化への対応や重度障害者の方の支援
策を協議するため、入所施設やグループホ
ームの運営事業者団体との協議の場を
設置しました。引き続き、持続的に実現可能
な仕組みを検討していきます。
バリアフリー等改修事業は、必要性が認め
られるグループホームについて整備を進め
てきました。今後とも、利用者の状態変化に
対し、グループホームが適切な時期に必要
な改修ができるよう、制度の案内や事前の
調査を継続して実施していきます。

<p>じぎょうめい 【事業名】</p> <p>みんかんじゅうたくきょじゅう 民間住宅居住 しえんじぎょう 支援事業</p>	<p>じぎょうないよう 【事業内容】</p> <p>しょうがいしゃ みんかんちんたいじゅうたく にゆうきょ 障害者が民間賃貸住宅への入居を しやすくする仕組みとして「住宅セー フティネット制度」を活用し、住宅の マッチングや入居支援などを行いま す。</p> <p>へいせい ねんど せつりつ また、平成30年度に設立した 横浜市居住支援協議会を核に、 ふどうさんじぎょうしゃ ふくししえんだんたい 不動産事業者と福祉支援団体との れんけい きょうか 連携を強化します。</p> <p>れいわ がんねん がつ かいせつ そうだんまどぐち 令和元年8月に開設した相談窓口 では、住宅確保要配慮者やオーナー 等からの相談に対し、住宅の紹介や ふくし そうだんまどぐち しょうかいとう おこな 福祉相談窓口の紹介等を行いま す。</p>	<p>れいわ ねんどじっせき ねんどまつじてん 【令和4年度実績(年度末時点)】</p> <p>そうだんけんすう ○相談件数</p> <p>けん ごうけい けん しょうがいしゃ 415件(合計2,003件のうち、障害者から そうだんけんすう の相談件数)</p> <p>かだい こんご ほうこうせい 【課題と今後の方向性】</p> <p>しょうがいしゃ きょじゅうしえん にゆうきょ あと せいかつ 障害者の居住支援は、入居した後の生活 しえん じゅうよう にゆうきょ たいきょ き 支援も重要であり、入居から退去までの切 れ目のない支援を充実する必要がありま す。そのため、きょじゅうしえんきょうぎかい そうだんまどぐち 居住支援を行う不動産や福祉の事業者な れんけい きょうか どとの連携を強化することにより、障害者の じょうきょう おう こま しょうがいしゃ 状況に応じたきめ細やかな支援を進めま す。</p>
---	---	--

(3) 地域生活のためのきめ細かな対応

【事業名】

障害児者の医療
環境整備事業

【事業内容】

障害児・者が身近な地域で適切な医療が受けられる環境づくりを推進するため、障害特性等を理解し適切な医療を提供できる医療機関を増やします。
また、医療的ケア児・者等の地域生活への支援として、必要な支援を総合的に調整する「横浜型医療的ケア児・者等コーディネーター」の養成と配置、所属する施設・事業所等において、医療的ケア児・者等の受入れを積極的に行えるよう支援に必要な知識・技術の普及啓発を行う「横浜型医療的ケア児・者等支援者」の養成を行います。

【令和4年度実績(年度末時点)】

- 知的障害者専門外来設置医療機関の箇所数及び受診者数
設置数:5病院
受診者数:221人
- 医療的ケア児・者等コーディネーター相談件数
659件
- 医療的ケア児・者等支援者養成研修
修了者数
42人(累計136人)

【課題と今後の方向性】

- 知的障害者専門外来設置医療機関について、南部方面に設置出来ておらず、箇所数も少ないため、南部方面に6か所目の設置を目指します。また、身近なかかりつけ医で適切な医療が受けやすくなるよう、医療従事者を対象とした障害理解の促進につながる研修を行います。
- 医療的ケア児・者等支援促進事業について、医療的ケア児・者等に対応できる施設・事業所等が少ないため、医療的ケア児支援法の施行も踏まえ、保育・教育分野での受入れ促進を図ります。
- ・ オンライン開催も含め支援者養成を着実に進めるとともに、フォローアップ研修の実施等により関係機関の連携強化を進めます。
- ・ コーディネーターの認知度を向上させ、地域の支援者や関係機関が医療的ケア

		<p>見・者の対応についての相談をしやすいとします。</p>
<p>【事業名】 移動情報センター運営等事業</p>	<p>【事業内容】 移動支援に関する情報を集約し、一人ひとりにあった適切な情報を提供することや、移動支援を支える人材の発掘・育成を行う移動情報センターを全区に設置し、市内のどの地域でも移動支援の仕組みを効果的に利用できるようにします。</p>	<p>【令和4年度実績（年度末時点）】 ○相談件数 2,172件 【課題と今後の方向性】 今後は、移動情報センターの更なる周知を図ることでセンターが広く認知され、活用が進むよう取り組んでいきます。また、運営の充実に向けて、移動に関連する社会資源との連携を深め、センター運営協議会等において効果的な取組事例を共有することにより、相談時に移動に関わる適切な情報が提供できるよう取り組んでいきます。</p>
<p>【事業名】 障害者自立生活アシスタント</p>	<p>【事業内容】 地域で単身等で生活する障害者に対して、自立生活アシスタントが、その障害特性を踏まえて、具体的な生活場面での社会適応力を高める助言を中心とした支援を行います。</p>	<p>【令和4年度実績（年度末時点）】 ○実施か所数 36 か所（知的・精神・高次脳機能障害対象） ○登録者数 のべ774人 【課題と今後の方向性】 障害者の地域移行を進める中で、本事業の必要性は高いものと考えられます。法定サービスである自立生活援助との整理を明確にし、引き続き、必要な方に支援が届くよう関係機関への周知やアシスタントのスキルアップに努めます。</p>